

第2章 比較都市研究 江戸と大阪（東京都江戸東京博物館・大阪歴史博物館 共同研究）「浅草十二階と大阪の展望所を持つ施設」

はじめに

東京都江戸東京博物館の都市歴史研究室では、2007年（平成19）度より、大阪歴史博物館との共同研究を行っている。2011年（平成23）3月22日（火）には、大阪歴史博物館において、明治時代、両都市に建設された「塔」をテーマとして研究会を行った。

喜多川周之氏は、凌雲閣研究において、その前史として大阪に建設された「塔」（喜多川周之氏は、「高所高覧施設」と言っている）に着目し、それらの資料も集めていた。喜多川周之氏は、東京の富士山縦覧場の成功が大阪の浪花富士山となり、さらに、大阪では、五階の眺望閣、商業倶楽部、九階の凌雲閣が建ってゆき、この九階の凌雲閣が、浅草の凌雲閣建設の直接の契機となったと推定している。

2010年（平成22）度の共同研究においては、大阪歴史博物館の船越幹央氏に「大阪における明治20年代の展望所を持つ施設について」という題で、大阪の「塔」がいかなるものであったかを紹介していただいた。また、東京都江戸東京博物館の行吉正一は、浅草の凌雲閣について、喜多川周之コレクションを基に紹介し、最後に、大阪歴史博物館の学芸員の方々と質疑応答を行った。東京と大阪の「塔」を比較することにより、それぞれの特徴が浮かびかかってきたが、この比較をさらに進めると、両都市の「塔」の研究に新たな道が開けるのではなかろうかという印象をもった。

この章は、大阪歴史博物館の船越氏の発表と、質疑応答の内容を記録したものである。なお、行吉が行った発表は、1章の研究フォーラムの行吉の発表と重複するので、配布した資料のみを掲載する。